

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/3~2/10	1/27~2/3	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.024	0.021
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.023
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.058	0.034
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.029	0.034
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.022	0.017
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.032
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.085

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/3~2/10	1/27~2/3	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.014	0.017
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.017	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

●渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

今回で大気浮遊じん放射能測定は、151回を数えました。また今回の放射性セシウム134は観測されず、放射性セシウム137の平均濃度は0.027mBq/m³でした。この濃度の浮遊じんから発せられる放射線は極めて低い濃度であり、健康影響について心配はいりません。

南相馬市で測定が始まった2014年11月1日から6年間、151回の観測値の健康影響に関する解説をさせていただきました。それを読み返してみると「危機に際して身を守るための行動方針は、自分の置かれている状況を科学的に理解し、その影響を論理的に解析して得た推測をもとに決める」ことが重要だと感じます。私たちはこのことを次世代にも伝えていかねばなりません。

次号より測定値のみの掲載とし、専門家による解説は、6月1日号、10月1日号、2月1日号および測定値に顕著な変化があった場合に掲載いたします。